

おおぐみ



広報 No.186

KOHO OGIMI 2010年 9月号



# 大宜味

「健康長寿の  
いきいき輝く  
文化の村」



沖縄タイムス社提供



地域が燃えた夏 感動を「ありがとう」



# 平成22年度シークワサー

## 初出荷式!!



はさみ入れを行う島袋村長と関係者の方々

平成22年度のシークワサー初出荷式が、7月29日(木)主催・北部地区シークワサー生産・出荷・販売推進会議 協賛・沖縄県シークワサー消費推進協議会のもと大宜味村押川区にて開催されました。

協力による即売PRおよび、消費者の嗜好にあわせた、季別販売戦略の実践が明確化されました。

また、島袋義久村長は、「村の特産品であるシークワサーを花、青切り、加工用、フルーツ用と通年産業を確立し、大宜味ブランドを構築していき観光資源としてのシークワサーの安定した産地形成にむけてみんなで取り組んで行きますよ」とあいさつしました。

大宜味村内の今期の生産量は、約2,000トンが見込まれており、9月末まで青切りの出荷がピークを迎えます。



シークワサー初出荷式の様子



### 大宜味村シークワサー 産地振興協議会ブログ開設の お知らせ

大宜味シークワサーの消費拡大PR及び、大宜味村シークワサー産地振興協議会の活動を幅広く周知することを目的として、この度大宜味村シークワサー産地振興協議会のブログが開設されました。当協議会の専門部会をはじめとする活動の取り組み、シークワサー関連商品や生産者のご紹介等、盛りだくさんの掲載を今後予定しております。是非、ご覧下さい。



jimamaさんの歌で会場が一体に

人権啓発活動の一環として、参加者に入権について考える機会を提供し、相手に対する優しい心を育んでもらおうと、jimama人権コンサートが8月14日(土)、塩屋漁港広場で行われました。

会場には300名余りが詰めかけ、来場者たちは海風の心地よい風を受けながら、jimamaさんの歌声に耳を傾けました。コンサートを始めるに当たり島袋義久村長からは、「jimamaさんの歌を通して、今以上に相手の気持ちを考え、思いやることの大切さを心に育んで頂けたらと思います。それこそが人権擁護のひとつとなります」とあいさつがありました。

おじちゃんのことを歌ったという、jimamaさんの代表曲のひとつ「でいこ」を含め、全9曲を熱唱し、曲の合間に挟むトークでは、「そばにいて支えてくれる人がいることに気付くことが大切。そばにいる人を今以上に大切にしたい」と呼びかけました。最後の曲「大丈夫 long version」明日へ〜では、会場が一体となり、曲に合わせて手を振りながらのフィナーレを迎えました。

### Jimama 人権コンサート

# 2010 美ら島沖縄総体 ボート競技大会



## 開 会 式

8月6日、美ら島沖縄総体ボート競技大会の開会式が、辺土名高校で開催されました。全国から訪れた選手団や関係者らを歓迎し、大会を盛り上げようという辺土名高校の生徒16名によるエイサーで開会式の幕が上がりました。

開会式の司会は、辺土名高校放送部の宮城容司郎君と、山城真梨奈さんが務めました。辺土名高校放送部は、競技運営補助員として大会アナウンスも担っており、宮城君は、「選手に頑張ってもらうために、実況をしつかりやりたい」、山城さんは、「勝ってもらいたいという気持ちもあるけど、楽しんで悔いの残らないような試合にしてもらいたい」と、今大会への抱負と、選手への激励の気持ちを話してくれました。また、全国の選手団を代表して辺土名高校の山城萌子さんと、美里工業高校の安間巨君が選手宣誓を行いました。

歓迎のことばとして、島袋義久村長からは「長寿の里、芭蕉布の里、シークワサーの里、ぶながやの里の4つのキーワードを掲げる大宜味村をぜひ満喫していただき、よい思い出にしてくださいれば幸いです」と、あいさつがありました。



エイサーで花を添えてくれた辺土名高校の生徒たち



二人とも力強く選手宣誓

## 敢闘した 辺土名高校 ボート部

辺土名高校の目覚ましい活躍の光った今大会。菅原佑亮君は、全国8位を記録。宮平愛さんは予選・準々決勝を勝ち抜き準決勝進出という結果を残しました。女子ダブルスカル（新里芽衣さん、比嘉靖奈さん）と、舵手つきクオドルプル（平良里佳さん、宮城みのりさん、宮城珠希さん、山城ひらきさん、山城萌子さん）もそれぞれ予選と敗者復活戦を勝ち抜き、順当に日程が進めば、出場した全ての選手が準々決勝に進めるはずでした。しかし、台風の影響で9日の全日程が中止となったため



宮平 愛(みやひら めぐみ)選手



菅原 佑亮(すがわら ゆうすけ)選手



左:新里 芽衣(しんざとめい)選手 右:比嘉 靖奈(ひがやすな)選手

に、準々決勝進出は夢となってしまいました。レース後、宮平さんは「負けたことは悔しかったけど、悔いのないレースができた。地域の人たちの応援に励まされ、本当に勇気づけられました」と、大会を振り返りました。菅原君は「予想以上の結果にとっても満足。応援してくれた方々には本当に感謝しています。9月にある国体では、今度こそ決勝進出を目指したい」と話してくれました。

女子ダブルスカルの新里芽衣さんと、比嘉靖奈さんは予選で自己ベストを出しましたが、レースの内容には満足していませんでした。そのため、準々決勝にかける思いはひとしおでした。「満足はできなかったけど、楽しかった。地元で応援している人のおかげで予選も突破できた」と話す新里さんの表情からは悔しさと大会にかけていた思いが伝わってきました。

琉球新報社提供



## 全国に大宜味村をPR

美ら島総体が行われるのを機会とし、訪れる人たちに大宜味村をアピールしていこうと、ポート会場周辺の屋古区で、大宜味村農山漁村生活研究会、JAおきなわ大宜味支店、三村の商工会が一体となって物産販売店を開きました。

シークワサーみつ、かりゆしウエア、総体オリジナルTシャツなどが販売され、大宜味村商工会の宇根哲也さんは「売れ行きは良好」と顔をほころばせました。

生活研究会の山城初子さんは、今回の総体が大宜味村を全国にPRしていくきっかけになればと意気込み、「大宜味の特産品はシークワサー。子どもから大人までおいしく飲め、疲労回復効果もあり、ポート競技にもぴったり」と、全国にシークワサーを広げていきたいと力を込めました。



「大宜味村の特産品いかがですか」

## 地域みんなで選手を応援

地域住民、塩屋保育所の所児、辺土名高校の父母会など多くの方が応援に駆けつけ、太鼓を打ち鳴らし、メガホンを持って叫び、試合後には、歌にカチャーシーと大盛り上がり。最終日には地域の女性たちが伝統行事「海神祭」(ウンガミ)の衣装を身にまとい選手達を応援する姿がありました。

大宜味村幼稚園で教諭を務める山城成子さんは、宮平愛さんの準決勝のレース後、「自分たちの夢も乗せて頑張ってもらった。遊びたいのにも見向きもせず、よく頑張った。お疲れさま」と、幼稚園の頃から見守ってきた愛さんの成長した姿に目を細めました。

女子ダブルスカルに出場した比嘉靖奈さんの祖母である吉田米子さんは、「みんな自分の孫のように応援している。大会が



「がんばれー」と塩屋保育所の子どもたちも声援を送りました。



地域をあげての応援「チバリヨー」辺土名高校

地元で開催され、孫たちが活躍していることを誇りに思う」と、同じく舵手つきクオドルプルに出場した宮城珠希さんの祖母宮城ハナさんは、「孫たちの活躍を間近で見ることができて本当に幸せ」と、笑顔をこぼしていました。

会場には、息子の活躍を見ようと菅原佑亮君の両親の姿もありました。父親の康典さんは、「佑亮は辛抱強くなり、回りにも気遣いができるようになった」と息子の成長を喜び、「すばらしい環境で、人も温かい。地域のみなさんが親代わり」と第2の故郷となった沖縄に感謝していました。

里親を務める稲福伸さんは、今年4月ごろ、佑亮君が大学受験のため、ポートを辞めて進学するか悩んでいた際、「今しかできないことをした方がいい。勉強は進学してからもできる」とアドバイス。佑亮君のレースが終わったあと、稲福さんは「地元開催でプレッシャーもあったと思うけど、国体では伸び伸び楽しんでやって欲しい」と次の大会へのエールを送りました。

## 花が咲き、選手に思い届け

塩屋区大川売店の近くに「おっかあ(母)たちも応援しているよ」とメッセージの書かれた看板が立てられ、その隣には美しく咲いた色取り取りのハイビスカス。村婦人会が主体となり、一年半をかけて美ら島総体に向けて植えられたハイビスカスがこの日を待っていたかのように見事に咲いていました。

「一人一鉢運動」の名の下に、婦人会の人たちが各家庭で心を込めて育てました。婦人会の与那嶺照子さんは、「8月は花が咲かないと言われたけど、思いを込めて育て、きれいな花を咲かせてくれた」と嬉しそうに話してくれました。鉢には選手たちにあてた沖縄の方言も添えられていました。



看板の横には美しく咲いたハイビスカス

## 村建設業者会も協力

美ら島総体ポート競技大会を目前に控え、特設駐車場として使用される結の浜において、駐車場の整備が7月21～22日にかけて行われました。

駐車場の整備には、役場職員や大宜味村建設業者会が参加し、強い日差しが照りつける中、雑草の刈り取りや樹木伐採、地ならしなどの作業を行いました。

とりわけ、建設業者会からの力添えは大きく、2日間、30名あまりが参加し、大会運営の協力として整備作業に取り組んでくれました。

大宜味村建設業者会の前田孝明会長は、今回の作業への参加の経緯を、「高校総体は50年に一度の大きな事業なので、ぜひ成功してもらいたい。建設業者会として、村民のために貢献したいという思いがあった」と話してくれました。



駐車場を整備する様子



## 各役員の取り組み

今大会は、関係機関・団体、駐車場班、受付案内班や人員輸送班など多くの大会運営役員・競技役員との協力を得て大会を成功させることができました。また、高校生も「一人一役運動」というスローガンのもと、各補助員としてそれぞれの役割をこなし大会を後押ししてくれました。



選手が乗るボートのスタート位置の調整などを行ったウオーターマン。



レースや会場の雰囲気をカメラやビデオで撮影した広報報道班。



レース終了後、選手が舟から降りたり舟を戻す手伝いを行った配艇委員会。



会場内のごみ拾いやトイレの掃除などを行った環境施設班。

## 植樹祭

ボート競技に参加する選手、関係者に地球環境に対する関心を高めてもらうことを目的として、辺土名高校環境学科ならびに生徒会は8月8日(日)、塩屋湾白浜地区で「美ら島ヒルギ植樹祭」を開催しました。県外の高校生約70名、関係者約60名が参加し、オヒルギとメヒルギの苗200本を植えました。同地区では平成15年にマンングロープ1万6千本を植えたことがあり、今回の植樹は2度目のこととなります。

今回の植樹祭の代表を務め、植え付け方法をアドバイスしながら共に作業に取り組んだ安里郁登さん(辺土名高校3年)は、「植樹祭が一生の思い出となつて、大宜味村を覚えてもらえたらうれしい」と話し、環境への意識が高まってくることにも期待を込めました。伏見工業高校の(京都)前川絢野さんは、「地球環境の問題に直接関わることでできてうれしい」と話してくれました。

白浜区の親川富成区長は、「子どもた



参加者は楽しそうに植樹を行っていました

ちが地域の環境を考えてくれることが心強い。植えるだけでなく、そのあとの成長を見守って欲しい」と願いを込め、県外から来ている子どもたちには、「植樹を行つて大人になつて今回植えたヒルギがどうなっているか気にしながら、また大宜味村に来て欲しい」と語ってくれました。

植え付けを行ったあとは、大保公民館に場所を移して交流会が行われ、親睦を深めました。

## 民泊の交流会

高校総体で民泊をしている人たちに地域との親睦をいっそう深めてもらい、思い出に残る形で大宜味村を味わつてもらおうと、大宜味村塩屋湾交流会(主催 同実行委員会)が8月8日(日)、塩屋公民館で開催されました。

交流会には、民泊を受け入れている家庭や、選手関係者、港内8区長など約100名余りが参加しました。

交流会ではシークワサーやジューシーなどの沖縄料理が提供され、「シークワサーが特徴的で身体に良さそうで美味しかった」と満足そうに食していました。

芸能では婦人会による民謡ショーや青年会によるエイサーが披露され、最後は力チャーターで盛り上がりを見せました。参加した民泊



最後はみんな一緒になってカチャーシーで盛り上がりました

客は「東京では味わえない繋がりを持てて嬉しい」と満面の笑みでした。また、民泊を受け入れた農家からは「最初はどういう人が来るか不安だったけど、受け入れてみたら打ち解けるまで時間がからなかった。今後このような機会があれば受け入れたい」と話してくれました。



大会旗は来年度の開催地へ

台風の影響で一日中止となるアクシデントもありましたが、地域をあげての民泊、地域との交流と環境への配慮を企図した植樹祭、地域の熱狂的な応援と、あたたかみのある大宜味村の色が出た大会となりました。

やんばる三村で実行委員会を立ち上げて取り組んだ今大会は成功裏に終わり、大会旗は来年度開催地の岩手県花巻市に引き継がれました。

## 表彰式・引継式

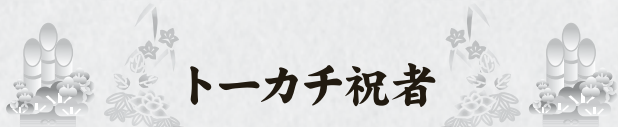
8月10日、美ら島沖繩総体ボート競技大会の表彰式・引継式が、塩屋小学校で行われました。塩屋小学校の生徒16名がエイサーと空手を披露し、大会の最後に花を添えました。

大会の締めくくりとして、島袋義久村長からは、「大会の準備をして下さった方々、応援団として頑張った方々、応援として頑張った方々、多くの人たちが私たちに大きな喜びと感動を与えて下さいました。」と協力いただきました。全ての皆さまに感謝申し上げます。とあいさつがありました。

台風の影響で一日中止となるアクシデントもありましたが、地域をあげての民泊、地域との交流と環境への配慮を企図した植樹祭、地域の熱狂的な応援と、あたたかみのある大宜味村の色が出た大会となりました。

やんばる三村で実行委員会を立ち上げて取り組んだ今大会は成功裏に終わり、大会旗は来年度開催地の岩手県花巻市に引き継がれました。





## ト一カチ祝者

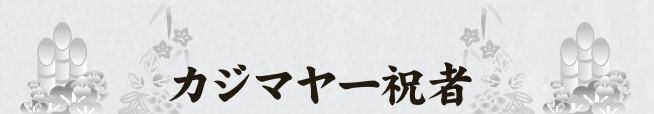
	氏名	字名
1	大嶺 ミネ	田嘉里
2	平良 千代	謝名城
3	平良 平太郎	謝名城
4	野里 孝徳	謝名城
5	野里 ハル	謝名城
6	山城 盛光	喜如嘉
7	金城 ミネ	喜如嘉
8	平良 テル	喜如嘉
9	大城 則子	根路銘
10	瑞慶山 千代	上原
11	友寄 景喜	上原
12	照屋 林	上原
13	宮城 ヨネ	塩屋
14	宮城 沙智子	塩屋
15	宮城 初枝	塩屋
16	島袋 ハル	塩屋
17	松本 トヨ子	田港
18	友寄 千鶴子	押川
19	友寄 サキ	押川
20	辺土名 朝清	宮城
21	辺土名 清子	宮城
22	平良 カツ	白浜
23	古波蔵 ナツ	江洲

# 長寿のあやかり 果報なむん

平成22年度のカジマヤ一ト一カチ祝の訪問が8月12日、対象者のいる字の公民館や自宅で盛大に行われました。今年、11字を訪問、村民の代表として島袋義久村長や平良森雄社協会長を先頭に、元気なお年寄りの長寿パワ一をあやかりました。5カ所の公民館と6カ所の自宅には、子や孫、親戚一同がおじいちゃんやおばあちゃんを囲んで賑わっていました。

ト一カチ祝いを迎えた大兼久の前田春子さんは、晴れ着姿に身をまとい、「こんな姿でみんなにお目にかかれるなんて、夢にも思わなかった」と感慨深そうに語ってくれました。また、孫たちが歌った「花ぬカジマヤ一」がテープから流されると、かわいらしい歌声に春子さんも、顔がほころんでいました。白浜区の平良カツさんのト一カチ祝いには、親戚一同が介し、カツさんのト一カチを祝福しました。カツさんのひ孫に当たる平良

貫珠さん(11歳)は、「浦添に住んでいて、普段はあまり会えないのが残念。おばあちゃんには120歳まで生きて欲しい」と笑顔がこぼれていました。塩屋区においては、米寿祝いの4名の親戚70人余りが集まり、芸能などのプログラムが組まれるなど、盛大に祝いました。宮城初枝さんの甥にあたる島袋一弘さんは、「こういった会があるのは、地域が年寄りを大事にしているから」と、感謝状の額にも地域の木工を使っており、ぬくもりを感じる」と、嬉しそうに話してくれました。



## カジマヤ一祝者

	氏名	字名
1	宮城 ハル	田嘉里
2	前田 春子	大兼久
3	宮平 房子	田港
4	前田 京子	田港



謝名城区



喜如嘉区



根路銘区



上原区



塩屋区



田港区



押川区



宮城区



白浜区



江洲区



おばあに負けずおじいパワーも健在

「頭が痛かったから、歯を抜いた。それからは頭の痛みが消えた」と、豪快なエピソードを話す辺土名朝清さん。鍛えるためにやっているという自慢の腕立て伏せも披露。毎日細に足を運び、みかんやだいこん、人参などやんばるでつくれるものはほとんどつくっていると言います。お酒も週に1〜2度ほどたしなみ、朝まで飲むことも。そんな朝清さんに健康で長生きする秘訣を訪ねると、「普段の生活の中で、あまりストレスを感じないこと」とのこと。朝清さんの話を聞いていくと、そんな朗らかな性格が伝わってきます。



大兼久区





# お知らせ

暮らしに役立つ  
情報コーナー

## いざよい インフォメーション

### 大宜味村長及び 大宜味村議会議員選挙

下記の日程で大宜味村長及び大宜味村議会議員選挙の執行を予定しています。あなたの大切な一票を宜しく願います。

【選挙期日】 平成22年9月12日(日)

【投票時間】 午前7時～午後8時

【投票所】 各小学校多目的教室

※喜如嘉小学校のみ体育館

※投票日に投票できない方は期日前投票ができます

【期 間】 平成22年9月8日(水)～

9月11日(土)

【投票時間】 午前8時30分～午後8時

【投票所】 大宜味村役場第2会議室

(旧法務局)

※村外に滞在の方は不在者投票もできます  
お問い合わせ先：大宜味村選挙管理委員会

(電話 44-3001)

9/1  
～  
9/30

### 食生活改善 普及運動月間

生活習慣病の発症や進行を防ぐためには、生活習慣の改善、とりわけ食生活の改善が重要である。

平成20年国民健康・栄養調査結果によれば、肥満者の割合について、女性では減少、男性でも増加傾向が鈍化し、改善の兆しがみられるが、朝食欠食、野菜の摂取量については未だ改善がみられない状況にある。この為、国民一人ひとりが改めて食生活改善の重要性を認識し、理解を深め日常生活での実践を促進するため平成22年9月1日～30日までの1か月に本運動を展開し、種々の行事等を全国的に実施するものです。

#### 今年度のテーマは

#### 「朝食習慣・野菜不足の解消」!

朝ごはんをしっかり食べましょう

朝食を食べると

- ・脳や体の働きが活発になる。
  - ・体温が上昇しやる気が出る。
  - ・イライラを防ぐ。
  - ・排便の習慣をつくりやすい。
  - ・体脂肪の蓄積を防ぐ。
- 朝食は何を食べたらいい?
- ・ご飯やパンなど脳のエネルギー源を中心に温かい汁物や、肉、魚、卵、豆腐などの主なおかず、野菜や芋類、海藻類などを材料としたおかずを食べましょう。
- 果物や乳製品をプラスさせるとさらに良いです!!

#### 野菜不足を解消しよう

今が旬のゴーヤー・へちま・おくら・なす・ハンダマ・瓜類等は太陽の栄養をたっぷり含み、抗酸化作用をもつといわれています。この時期にしかない味をしっかり食することが身体にとって、最も良い状態といえます。朝・昼・夕の食事ですっきり摂取しましょう。

### シークワーサー産地振興協議会 からのお知らせ

#### マシン油の補助が受けられます

侵入警戒調査事業の対象エリア内(大兼久・根路・銘・大宜味「山手側」・押川「全域」)でカンキツ類を栽培されている皆さまは、9月に大宜味村シークワーサー産地振興協議会より薬剤(マシン油)の補助がありますので、自己申告を行いカンキツ類とゲッキツ及び防風林の防除をお願いします。防除は個人でお願いします。

\*詳しいことにつきましては、シークワーサー振興室(44-3084)までお問い合わせ下さい。

### 農業委員会活動

農地の情報は大宜味村農業委員会まで連絡下さい。

毎月25日(祭日等の場合は前後の日)は会議を行い、農家から出された届け出、許可等の審議をします。農地を如何に有効利用するかが大きな課題です。農地の貸し借りについては、農業委員会へ是非ご相談下さい。電話44-3477



#### 農業委員による 農地パトロール

毎月村内農地のパトロールを行います。農家との意見交換も大切な業務です。





## 平成23年度 大宜味村職員採用予定候補者募集について

大宜味村職員採用予定候補者試験を下記のとおり実施します。

### 1. 職種・試験区分、採用予定数

職種・試験区分	採用予定数
一般行政職 上級	若干名
一般行政職 中級	若干名
一般行政職 初級	若干名

### 2. 受験資格

- ① 一般行政職 上級 昭和56年4月2日以降出生の者で、学校教育法に基づく大学(短期大学を除く)を卒業した者(卒業見込み含む)又はこれと同等以上の学力があると認められる者。
- ② 一般行政職 中級 昭和56年4月2日以降出生の者で、学校教育法に基づく短期大学を卒業した者(卒業見込み含む)又はこれと同等以上の学力があると認められる者。ただし、行政職上級の受験資格を有する者は除く。
- ③ 一般行政職 初級 昭和60年4月2日以降出生の者で、学校教育法に基づく高等学校を卒業した者(卒業見込み含む)又はこれと同等以上の学力があると認められる者。ただし行政職上級、及び中級の受験資格を有する者は除く。

### ④ 共通

- ア 日本国籍を有する者。
- イ 平成22年8月6日現在大宜味村に住民登録がされ、引き続き住所を有する者、若しくは学業等の事由により一時的に住所を他に転移している者。
- ウ 平成22年8月6日現在大宜味村に本籍を有する者。
- エ 自動車運転免許証を有する者。(平成23年3月31日まで取得見込みのもの含む)
- オ 地方公務員法第16条(欠格事項)に規定する次の事項に該当する者は受験できません。
  - ・成年被後見人及び被保護人
  - ・禁錮以上の刑に処され、その執行が終わるまで、又はその執行を受けることがなくなるまでの者
  - ・大宜味村職員として懲戒免職の処分を受け、該当処分の日から2年を経過していない者
  - ・日本国憲法施行の日以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

### 3. 試験の期日

#### 第一次試験

平成22年11月6日(土)

- 一般教養試験 午前10時00分～午前12時00分(120分)

第二次試験については一次試験合格者について実施

平成11月27日(土)予定

- 作文試験
- 面接試験

### 4. 試験会場

大宜味村農村環境改善センター (大宜味村字喜如嘉320番地)

### 5. 試験申込書の配布

平成22年9月10日(木)～平成22年9月17日(金)

所定の申し込み用紙を総務課にて配布します。郵送で請求される場合は、封筒の表に「受験申込書請求」と朱書きし、140円切手を貼付したあて先明記の返信用封筒(角型2号)を同封して下さい。申し込み用紙及び関係用紙はホームページからもダウンロードできます。

### 6. 受付期間

平成22年10月1日(金)～平成22年10月8日(金)まで

所定の申し込み用紙を総務課に提出して下さい。郵送で申し込む場合は、封筒の表に「受験申込書在中」と朱書きし、必ず簡易書留にて送付してください。受付期間最終日消印有効。

大宜味村長 島袋義久

問い合わせ 大宜味村役場 総務課  
電話 0980-44-3001 大宜味村字大兼久157番地

2010

## 国勢調査

### 5年に一度の国勢調査が 全国で一斉に実施されます

◎住民票の有無に関わらず、平成22年10月1日現在で、実際に住んでいる場所で調査の対象となります。

◎国勢調査の結果は、選挙区の画定、議員定数の基準、地方交付材の算定の根拠となるなど、私たちの生活に大きく関わってきます。

**9月中旬から国勢調査員がすべての世帯を訪問し、調査票の記入をお願いしますので、皆さまのご協力をお願いいたします。**

お問い合わせ:企画観光課 電話44-3007

全国一斉 強化週間  
「高齢者・障害者の人権あんしん相談」

電話番号:那覇地方方法務局 098-854-1215

9月6日(月)～12日(日)

9:00～10:00 8:30～19:00  
9:15～12:00 10:00～17:00

法務省人権課 全国人権推進員協会

## 食と農を担う沖縄県立農業大学校 平成23年度 学生募集

本 科 (修業年限2年) 定員:30名

I 推薦入試

II 特別推薦入試

願書受付期間:平成22年9月1日(水)～10月29日(金)

●試験日:平成22年11月17日(水)

短期養成科 (修業年限1年) 定員:10名

I 特別推薦入試

II 一般入試

願書受付期間:平成22年9月1日(水)～10月29日(金)

●試験日:平成22年11月17日(水) ※年齢は概ね60才まで。

詳細につきましては農大教務まで  
電話0980-52-0050



第30回大宜味村青年会夏まつり

第20回大宜味村ふるさとまつり

# 大宜味夏まつり

大宜味村夏まつり実行委員会(照屋一樹  
実行委員長)主催の「平成22年度大宜味村  
夏まつり」が8月14日・15日、塩屋漁港広場で  
開催されました。

今年は大宜味村青年会夏まつりと、ふるさと  
まつりがそれぞれ30回目と、20回目の節目  
を迎える年に当たり、夏の風物詩に大人から  
子どもまで多くの人出で賑わいを見せまし  
た。

まつりの初日は、辺土名高校吹奏楽部とや  
んばる吹奏楽団の11名による演奏から幕を  
開け、元気いっぱいの喜如嘉保育所ぶながや  
太鼓と塩屋保育所のヤマシシ太鼓にバトンが  
渡されました。のど自慢カラオケ大会、婦人  
会芸能ステージ、前田秀幸ライブ、そしてベ  
リーダンサーズ&マジスティックスライブと会  
場は盛り上がりを見せ、初日を終えました。

2日目は、毎年恒例となっているヒージャー  
争奪綱引き大会、アームレスリング大会と来  
場者も一緒になって楽しめるイベントに盛り  
上がりを見せました。今年初の試みとし  
て、喜如嘉小学校獅子舞が演舞され、躍動  
感溢れる動きで会場を沸かせました。獅子  
舞の中に入っていた平良尚道君(大宜味中3  
年)は、「練習の時は、つまずいたり、動きが合  
わなかったりしたけど、はじめての大舞台で  
練習の成果を発揮できてよかった」と笑顔が  
こぼれました。大宜味村民謡愛好会ステージ  
では、平良スミさん(92歳)が参加し、高齢を  
感じさせない元気溢れる踊りを披露しまし  
た。

大宜味村夏まつりの代名詞となっている花  
火は、例年以上に盛大に打ち上がり、会場の  
夜空を美しく綺麗に彩りました。フィナーレ  
は、まつりの主役でもある村青年会による力  
強いエイサーで、会場の盛り上がりは最高潮  
に達し、演舞のあとは来場者も加わってカ  
チャーシーで幕を閉じました。



喜如嘉保育所ぶながや太鼓



塩屋保育所ヤマシシ太鼓



前田秀幸ライブ



大宜味村民踊愛好会ステージ



アイモコハルサーライブ



ベリーダンサーズ&マジスティックスライブ



喜如嘉小学校獅子舞



All Japan Goithライブ



大宜味村青年会エイサー



今年の綱引き大会の主役「黒やなぎ」さんと2年連続優勝のアカバンチチーム



まつりの主役大宜味村青年会のメンバー



**「うつ病」講演会**  
 うつ病についての講演会を開催します!!  
 日時：9月17日(金)  
 午後6時30分～8時まで  
 場所：大宜味村役場第2会議室  
 (旧法務局)  
 ☆参加費は無料ですので、どなたでも  
 お気軽にご参加下さい☆  
 詳しくは、役場・住民福祉課  
 44-3003までお問い合わせ下さい。

**ご寄付**  
 ■村人材育成基金へ  
 宮城 フジ子 様 10万円  
 ◎塩屋区  
 夫 宮城建松さんの香典返しとして  
 ■村社会福祉協議会へ  
 宮城 フジ子 様 10万円  
 ◎塩屋区  
 夫 宮城建松さんの香典返しとして  
 友寄 景喜 様  
 米寿祝を記念して

**村の人口** 7月末現在

男	1,714人	(+2)
女	1,641人	(+1)
計	3,355人	(+3)

世帯数 1,634世帯(+5)  
 出生1人 転入24人  
 死亡1人 転出11人

※注( )内数は対前月比

**平成27年度  
 大宜味村お祝いづくり応援寄附金寄附者**  
 大宜味村の発展のため、大切にに使わせていただきます。

新崎康博	【宜野湾市】
宮城正明	【那覇市】
福原八重二	【金武町】
若山一博	【愛知県】
新里一文	【東京都】
今井井袋	【神奈川県】
島保	【宜野湾市】

(他1名)

**満1歳お誕生日おめでとう!!**  
 (タンカー祝い)  
 世界にたったひとつだけのスマイル!



明るく元気で、  
素直にすぐよく  
育つてね

仲間 紅麗 ちゃん  
(宮城出身)



輝く未来の  
大宜味っ子!

真喜志 光莉 ちゃん  
(津波出身)

**9月 9 September ~ 10 October 大宜味村カレンダー**

1 水	◆区長会 ◆始業式(幼・小)
2 木	
3 金	
4 土	
5 日	◆PTA美化作業(大宜味中) ◆住民健診(午前:もれ者健診)
6 月	
7 火	
8 水	
9 木	
10 金	◆村PTA運営委員会
11 土	
12 日	◆中学校久志駅伝 ◆村長・議会議員選挙
13 月	中学校振替休日(18日分)
14 火	
15 水	
16 木	
17 金	
18 土	◆運動会準備出校日(大宜味中)
19 日	家庭の日 ◆大宜味中運動会
20 月	敬老の日
21 火	

22 水	
23 木	秋分の日
24 金	中学校振替休日(19日分)
25 土	
26 日	◆村陸上競技大会
27 月	10/2の振替休日(4小)
28 火	
29 水	10/2の振替休日(大中)
30 木	

**10月 October**

1 金	◆区長会
2 土	◆運動会準備出校日(4小) ◆ヤマシジっ子運動会(塩保) ◆地区中体連陸上競技大会
3 日	◆4小学校運動会
4 月	◆大中前期終業式 4小学校振替休日
5 火	秋休み<大中>(～8日)
6 水	
7 木	
8 金	◆体力測定(大宜味小体育館)
9 土	◆わんぱく④ ぶながや運動会(喜保)
10 日	◆幼稚園運動会

※このカレンダーは予定ですので、都合により変更されることがあります。各業務については電話等で確認してください。



# 村内あれこれ

## 辺土名高校放送部が快挙



第57回NHK杯全国高校コンテストのアナウンス部門と、テレビドキュメント部門で優秀な成績を残したことをうけて、辺土名高校放送部の生徒8名と、放送部顧問の大城恵美子先生、仲地光雄校長が7月27日、報告を行うため表敬訪問しました。放送部を代表して大城守理君は、「取材の時、いろんな人から声をかけてもらい、協力してもらった。地域の人ののおかげで、地域の人に支えられてインターハイ出場を果たすことが出来た。その思いを忘れず、これからもこの経験をともに頑張っていきたい」と、力強く話してくれました。

## 喜如嘉まつり



7月25日(日)に喜如嘉区で「喜如嘉まつり」が開催されました。伝統民俗芸能のウステークから始まったまつりは、こどもたちによるエイサー、地元喜如嘉区の青年達によるエイサーと続き、最後は地元住民と同郷出身者との交流会も行われ、盛大に幕を閉じました。

## シークワサーの今後を担って



シークワサー加工施設の指定管理者選定委員会委嘱状交付式 及び 選定委員会が8月20日(金)、村農村改善センターで行われました。手を挙げた企業は4社(うち1社は辞退)で、それぞれが応募した理由や今後目指すべき方向性などを発表し、それに対して選定委員からのヒヤリングが行われました。

## 国際通り一万人のエイサー踊り隊参加



8月1日(日)に那覇市で行われた一万人のエイサー踊り隊に今年も大宜味村青年団協議会メンバー50名が参加し、パレードを盛り上げました。今年で9年連続10回目の参加となり、青年団協議会のメンバーは5箇所を披露し、会場を沸かせました。

## キラリ おおきみ



すみれ  
名前 野里 朱美礼さん (謝名城出身)

将来の夢 放送業界・報道関係



NHK杯全国放送コンテストアナウンス部門準優勝、全国高校総体文化祭放送部門優秀賞、野里朱美礼さんがこの夏に残した輝かしい成績。野里さんが放送と出会ったのは、小学・中学での委員会活動の時。バスケットボールやテニスといったスポーツもしていたが、心から「楽しい」と思えたのは、放送活動だった。中体連の時に、各部活の部長にインタビューを行い、それをまとめ、発表したことでますます放送が楽しくなり、高校でも続けた。入学当初は、文章を書くことが苦手で、原稿を書き上げるのにも時間がかかった。辞書とアクセント辞典を携帯するなど、努力を重ねた。小さい頃から声が大きく、おしゃべりな性格は、放送部ではプラスに作用し、努力の成果と結びつき才能が開いた。

全国の舞台に出て、「身近なものを伝えることの大切さと魅力を再確認した」と話す野里さん。地域にある自然や文化、歴史などといった身近なものを取材したことが野里さんの原点にある。でも今、その本当の魅力に気付くには全国に出て、比較対象を見つけることが必要だと感じている。進学は本土の大学で本格的に放送を学ぶことを希望。大学で報道に関わる技術を学び、卒業後は地元に戻りたいと話す。数年後にはさらなる飛躍を遂げ、多くの人に「自分の思い」や情報を発信していることだろう。